スパイダープラス株式会社

2026年11月13日

コード番号：4192

東証グロース市場

2026年12月期 第3四半期 決算説明スクリプト



【決算発表資料】
https://spiderplus.co.jp/ir/results/

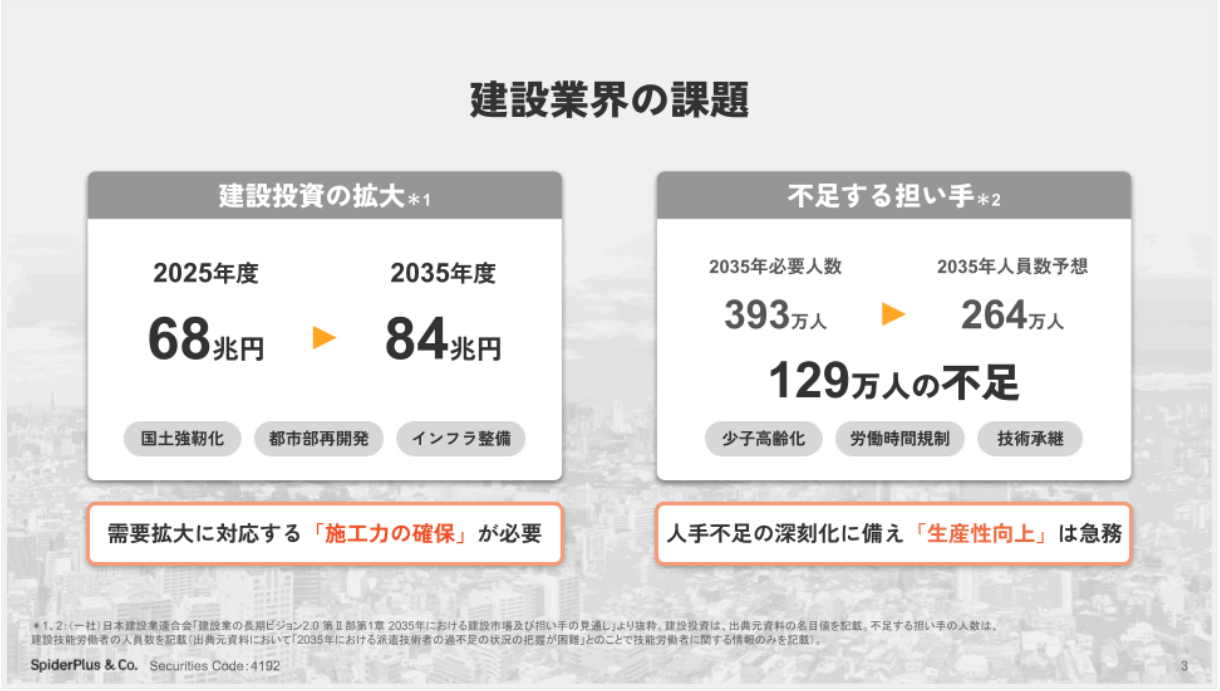
【スクリプトに関する注意事項】

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、資料作成時点において当社が入手している情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含むため、当社がその実現を約束するものではありません。

実際の業績は、経済環境や市場動向、提供するサービスの動向等の様々な要因により、これらの見通しと異なる可能性があります。また、当社は新たな情報や将来の事象等があった場合でも、これらの記述を更新・修正する義務を負いません。



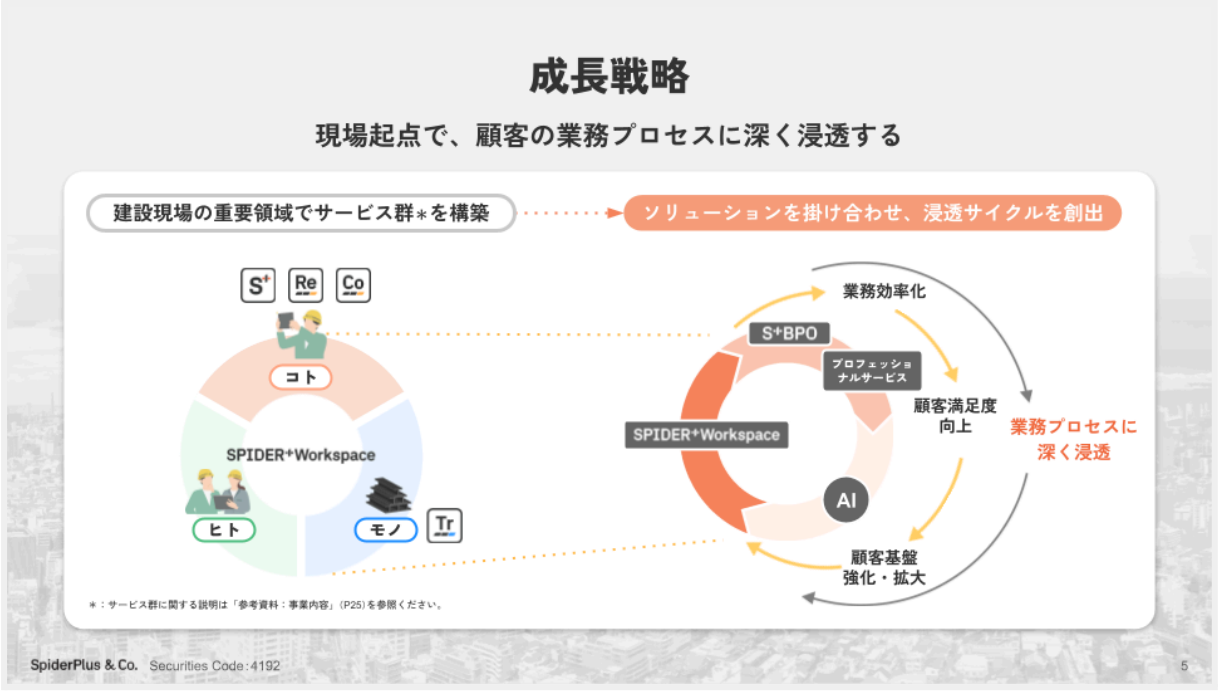
まずは、当社の事業概要について説明いたします。



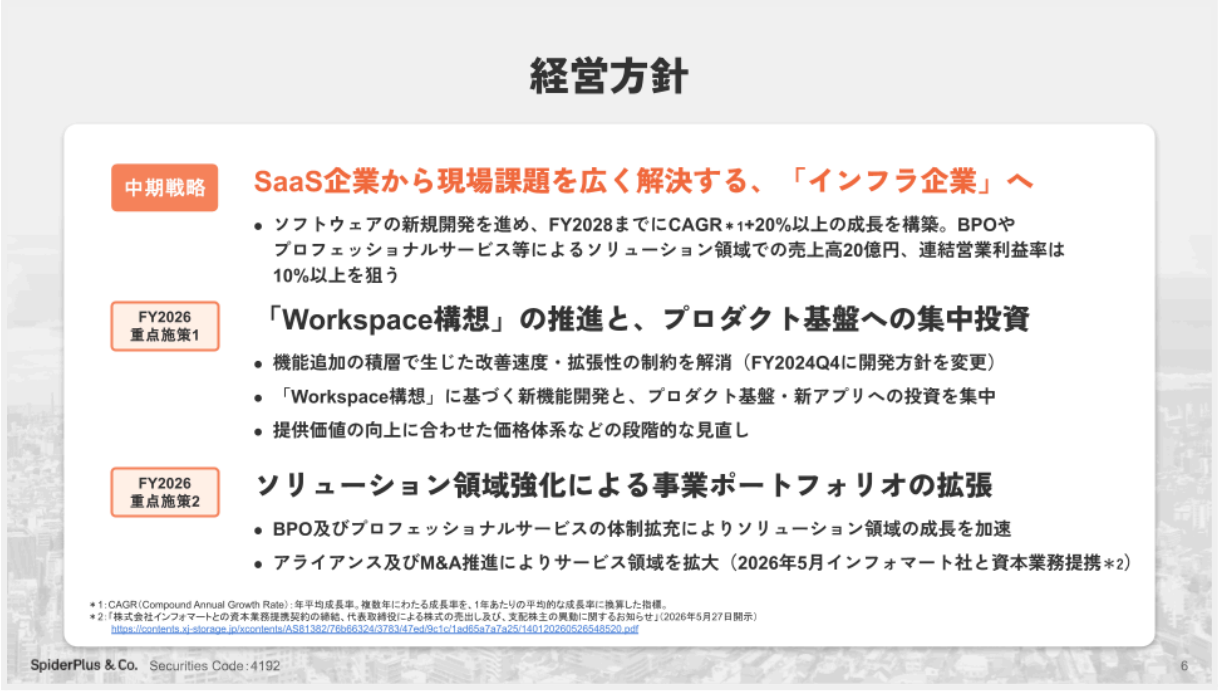
建設業界では、建設投資の拡大が見込まれる一方、2035年には129万人の担い手が不足する見通しです。生産性の向上が急務となっております。



当社は現場の統合管理ソフトウェアを中心に、アウトソーシングサービスとカスタマイズ・コンサルティングサービスを組み合わせ、業界課題を網羅的に解決するサービスを展開しております。



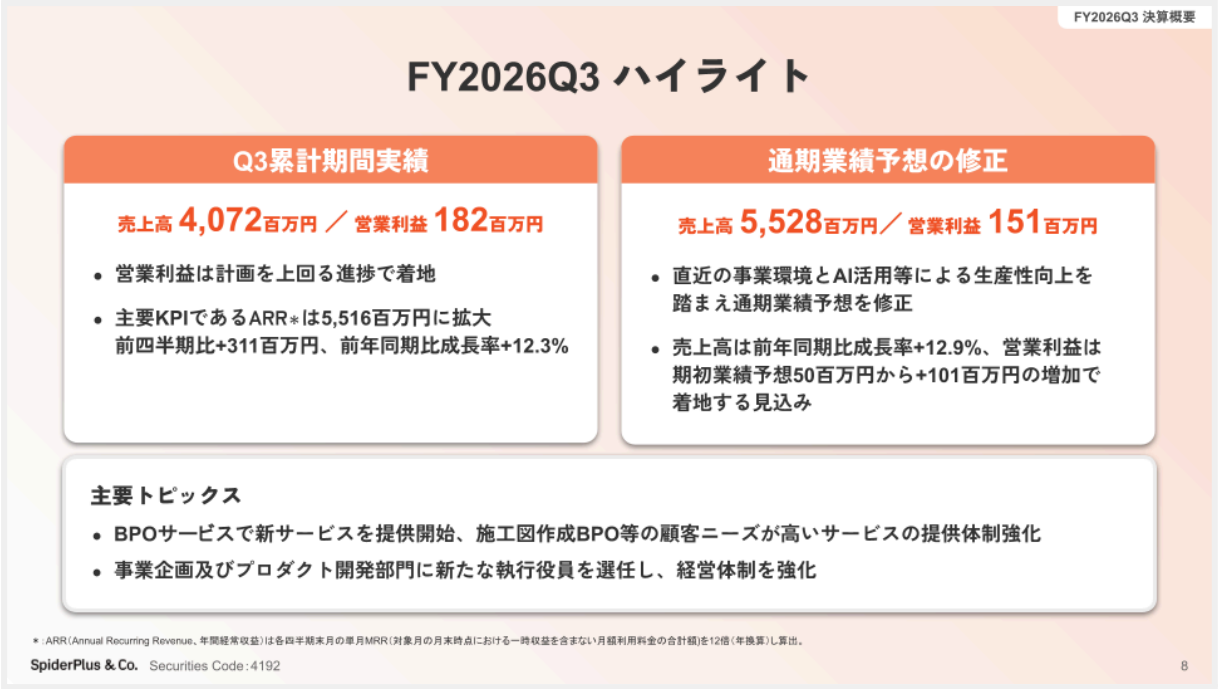
成長戦略としては、現場を起点にサービス群とソリューションを掛け合わせ、お客様の業務プロセスに深く浸透することを目指しております。



経営方針としては、SaaS企業から、現場課題を広く解決する「インフラ企業」への進化を目指しております。今期は、プロダクト基盤への集中投資と、ソリューション領域の強化を重点施策としております。



続いて、2026年12月期第3四半期の決算概要についてご説明いたします。



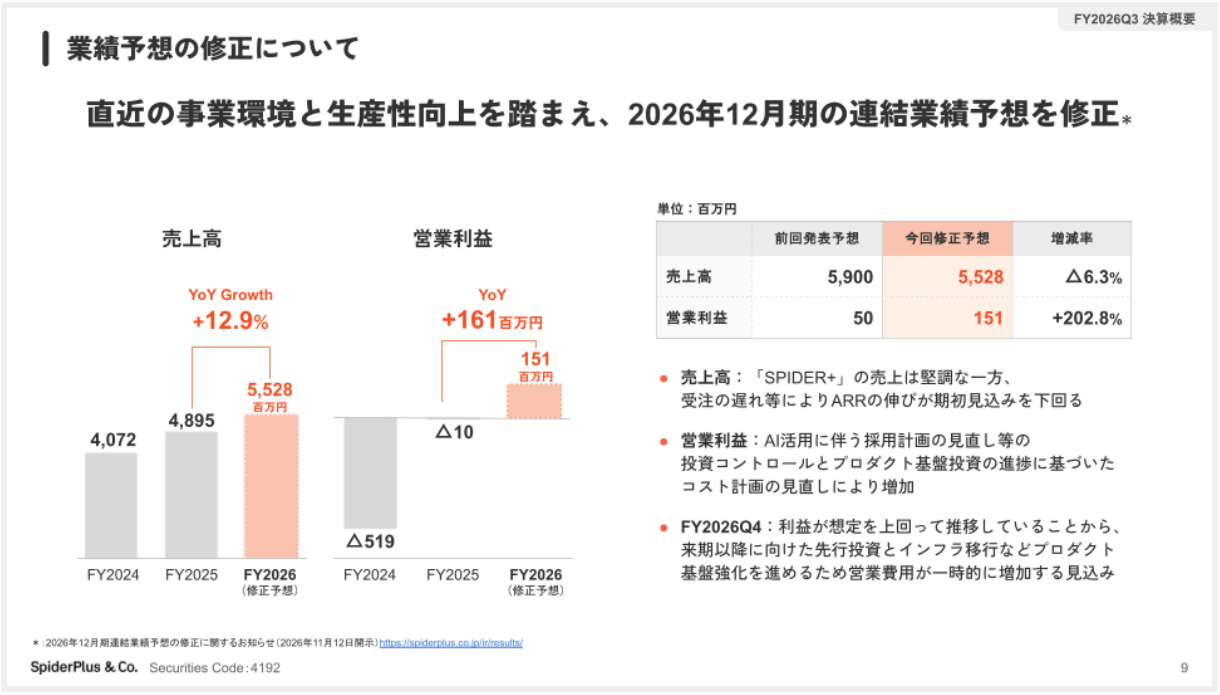
第3四半期のハイライトです。

第3四半期累計期間の売上高は4,072百万円、営業利益は182百万円となりました。
営業利益は計画を上回って進捗しております。

主要KPIであるARRは5,516百万円に拡大いたしました。前四半期末から311百万円の増加、前年同期比では12.3%の成長です。

直近の事業環境と、AI活用等による生産性向上を踏まえ、通期業績予想を修正しました。
売上高は5,528百万円、営業利益は151百万円を見込んでおります。詳細は次のスライドでご説明いたします。

主要トピックスは、BPOサービスにおける新サービスの提供開始と提供体制の強化、
新たな執行役員の選任による経営体制の強化です。



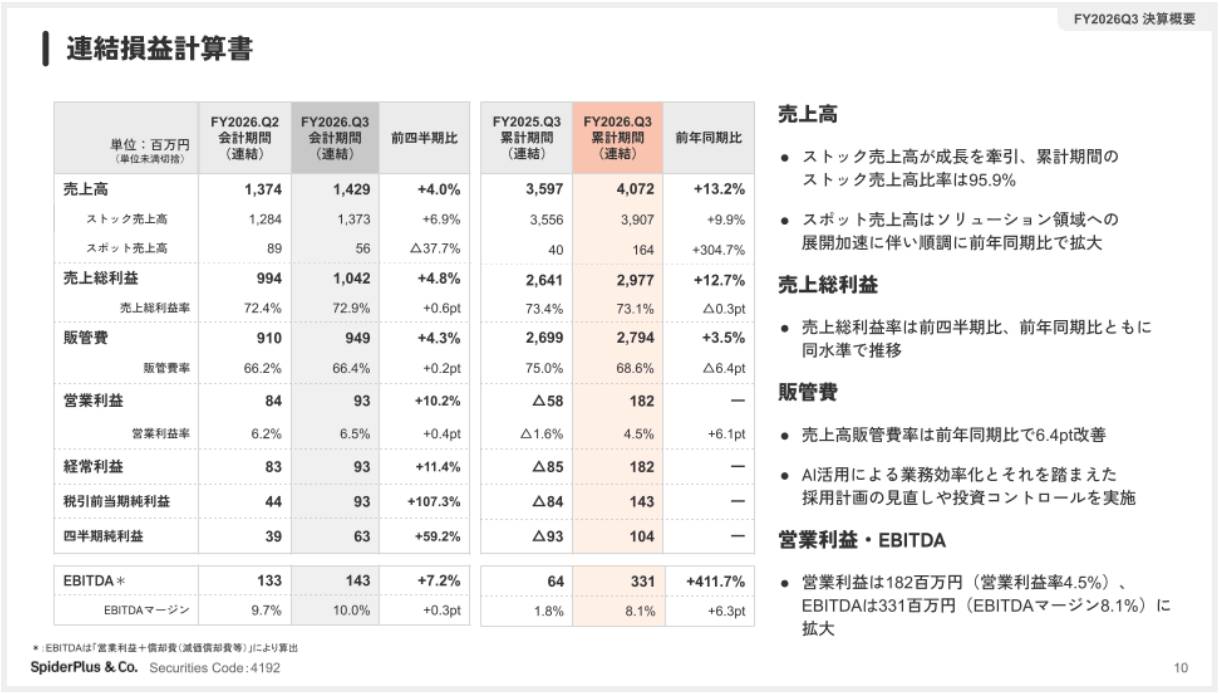
業績予想の修正についてです。

直近の事業環境と生産性の向上を踏まえ、2026年12月期の連結業績予想を修正しました。

売上高は、期初予想の5,900百万円から5,528百万円に修正しております。
SPIDER+の売上は堅調に推移しておりますが、受注の遅れ等により、ARRの伸びが期初の見込みを下回っているためです。修正後も、前期比では12.9%の増収を見込んでおります。

営業利益は、期初予想の50百万円から151百万円に修正しております。
AI活用に伴う、採用計画の見直しなどの投資コントロールとプロダクト基盤投資の進捗に基づくコスト計画の見直しによるものです。

第4四半期は、利益が想定を上回って推移していることから来期以降に向けた先行投資と、インフラ移行などプロダクト基盤の強化を進めてまいります。このため、営業費用が一時的に増加する見込みです。



FY2026Q3 決算概要

連結損益計算書

単位：百万円（単位未満切捨）	FY2026.Q2 会計期間（連結）	FY2026.Q3 会計期間（連結）	前四半期比	FY2025.Q3 累計期間（連結）	FY2026.Q3 累計期間（連結）	前年同期比
売上高	1,374	1,429	+4.0%	3,597	4,072	+13.2%
ストック売上高	1,284	1,373	+6.9%	3,556	3,907	+9.9%
スポット売上高	89	56	△37.7%	40	164	+304.7%
売上総利益	994	1,042	+4.8%	2,641	2,977	+12.7%
売上総利益率	72.4%	72.9%	+0.6pt	73.4%	73.1%	△0.3pt
販管費	910	949	+4.3%	2,699	2,794	+3.5%
販管費率	66.2%	66.4%	+0.2pt	75.0%	68.6%	△6.4pt
営業利益	84	93	+10.2%	△58	182	—
営業利益率	6.2%	6.5%	+0.4pt	△1.6%	4.5%	+6.1pt
経常利益	83	93	+11.4%	△85	182	—
税引前当期純利益	44	93	+107.3%	△84	143	—
四半期純利益	39	63	+59.2%	△93	104	—
EBITDA＊	133	143	+7.2%	64	331	+411.7%
EBITDAマージン	9.7%	10.0%	+0.3pt	1.8%	8.1%	+6.3pt

＊：EBITDAは「営業利益＋償却費（減価償却費等）」により算出

売上高

- ストック売上高が成長を牽引、累計期間のストック売上高比率は95.9%
- スポット売上高はソリューション領域への展開加速に伴い順調に前年同期比で拡大

売上総利益

- 売上総利益率は前四半期比、前年同期比ともに同水準で推移

販管費

- 売上高販管費率は前年同期比で6.4pt改善
- AI活用による業務効率化とそれを踏まえた採用計画の見直しや投資コントロールを実施

営業利益・EBITDA

- 営業利益は182百万円（営業利益率4.5%）、EBITDAは331百万円（EBITDAマージン8.1%）に拡大

SpiderPlus & Co. Securities Code：4192

10

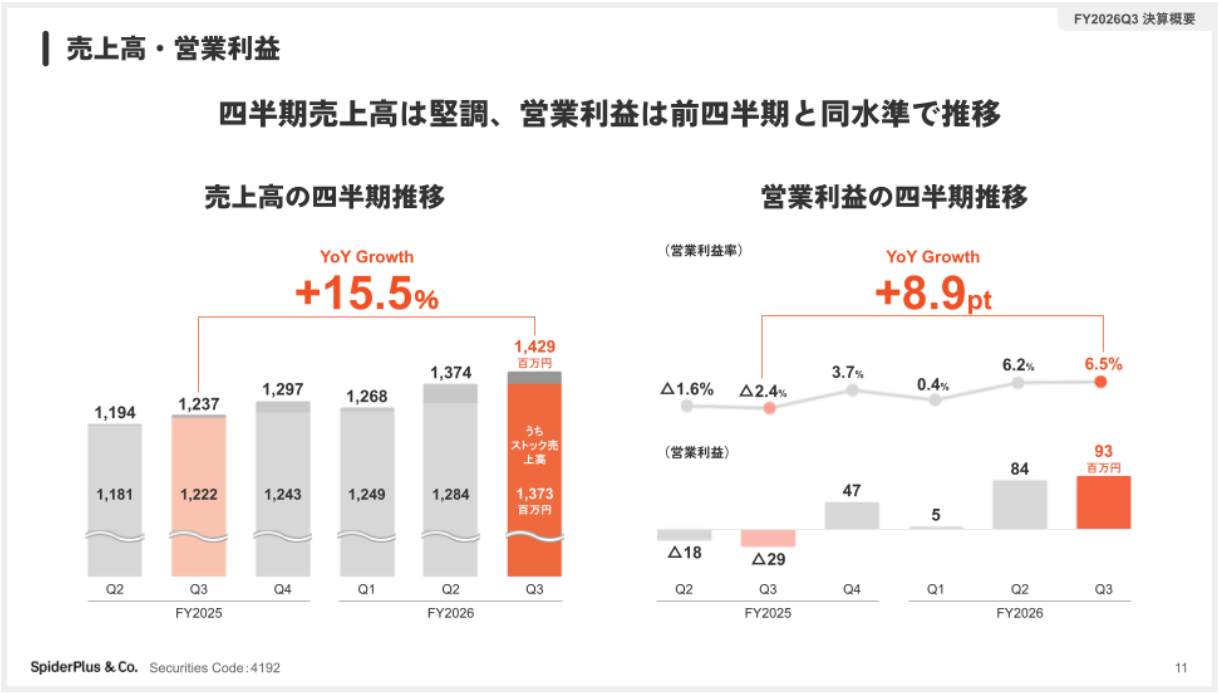
業績について、連結損益計算書の要点をご説明します。

第3四半期累計期間の売上高は、前年同期比13.2%増の4,072百万円となりました。ストック売上高が成長を牽引しており、売上高に占める比率は95.9%です。
スポット売上高も、ソリューション領域への展開に伴い、前年同期比で拡大しております。

売上総利益率は73.1%と、前年同期と同水準で推移しております。

売上高販管費率は、前年同期比で6.4ポイント改善いたしました。AI活用による業務効率化と、それを踏まえた採用計画の見直しや投資コントロールによるものです。

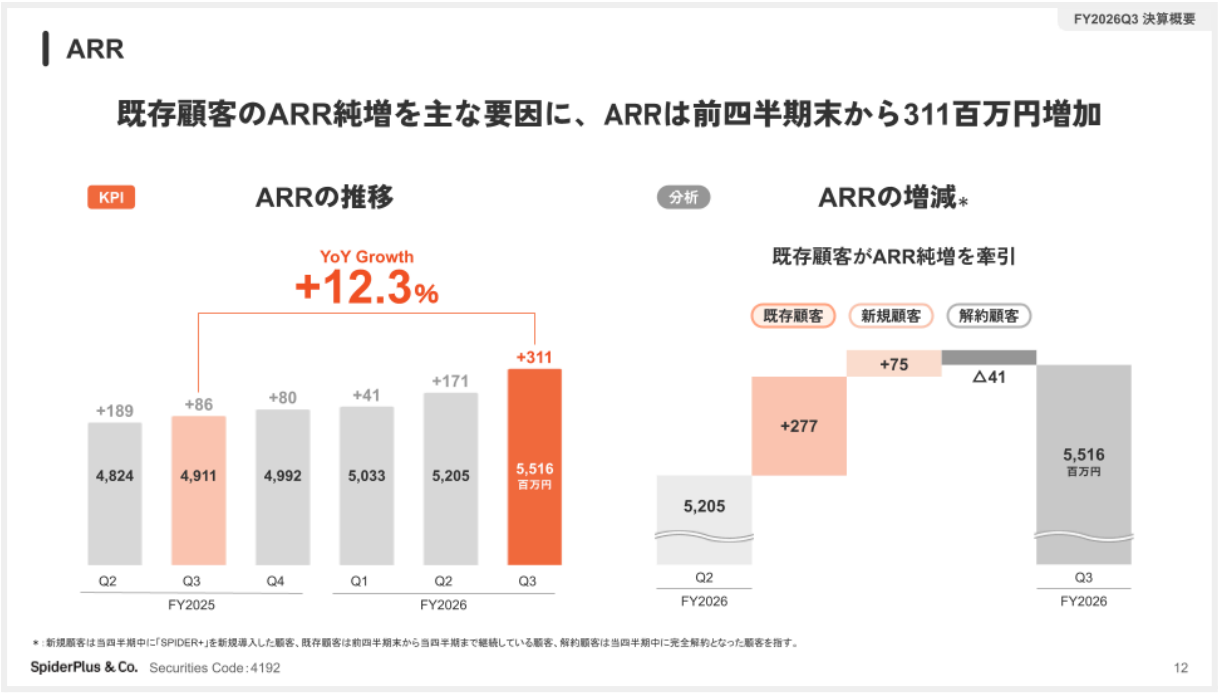
この結果、営業利益は182百万円、営業利益率は4.5%となりました。EBITDAは331百万円、EBITDAマージンは8.1%に拡大しております。



四半期ごとの売上高と営業利益の推移についてです。

第3四半期の売上高は1,429百万円と、前年同期比で15.5%増加いたしました。
このうちストック売上高は1,373百万円です。

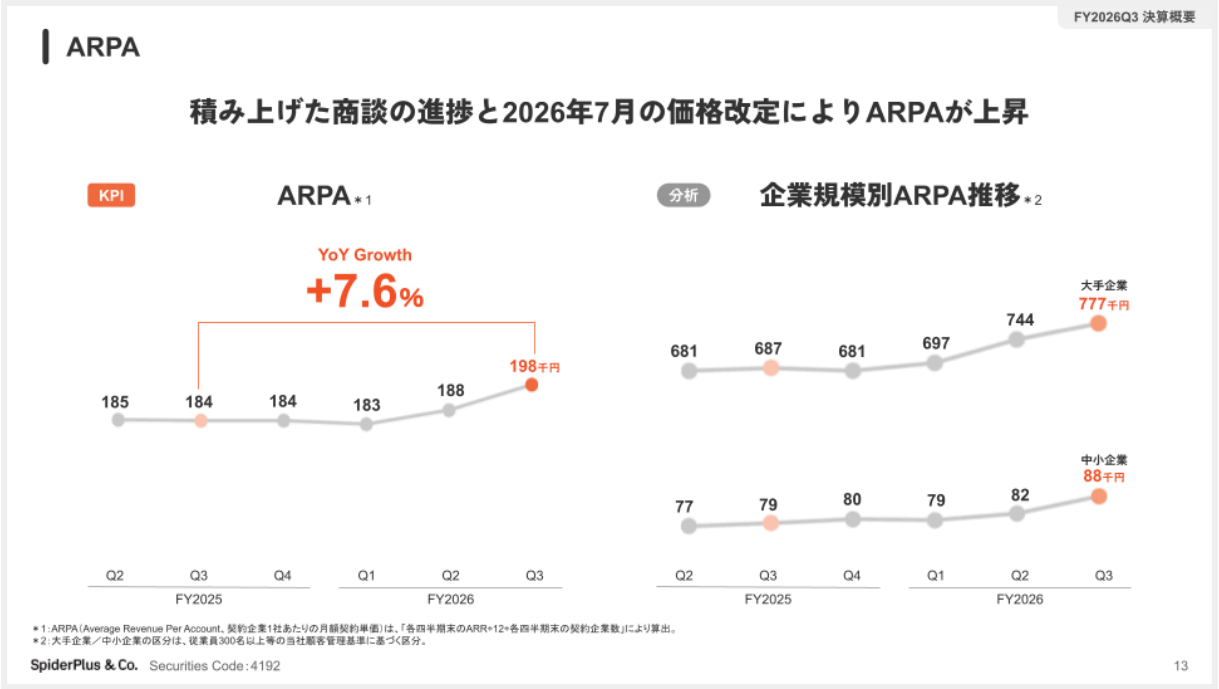
四半期の営業利益は93百万円、営業利益率は6.5%、前四半期と同水準で推移しています。
前年同期の営業利益率△2.4%からは8.9ポイントの改善であり、投資コントロールとAI活用の効果によって収益性が着実に改善しております。



ARRについてです。

第3四半期末のARRは5,516百万円となり、前年同期比で12.3%成長いたしました。
前四半期末からは311百万円の増加です。

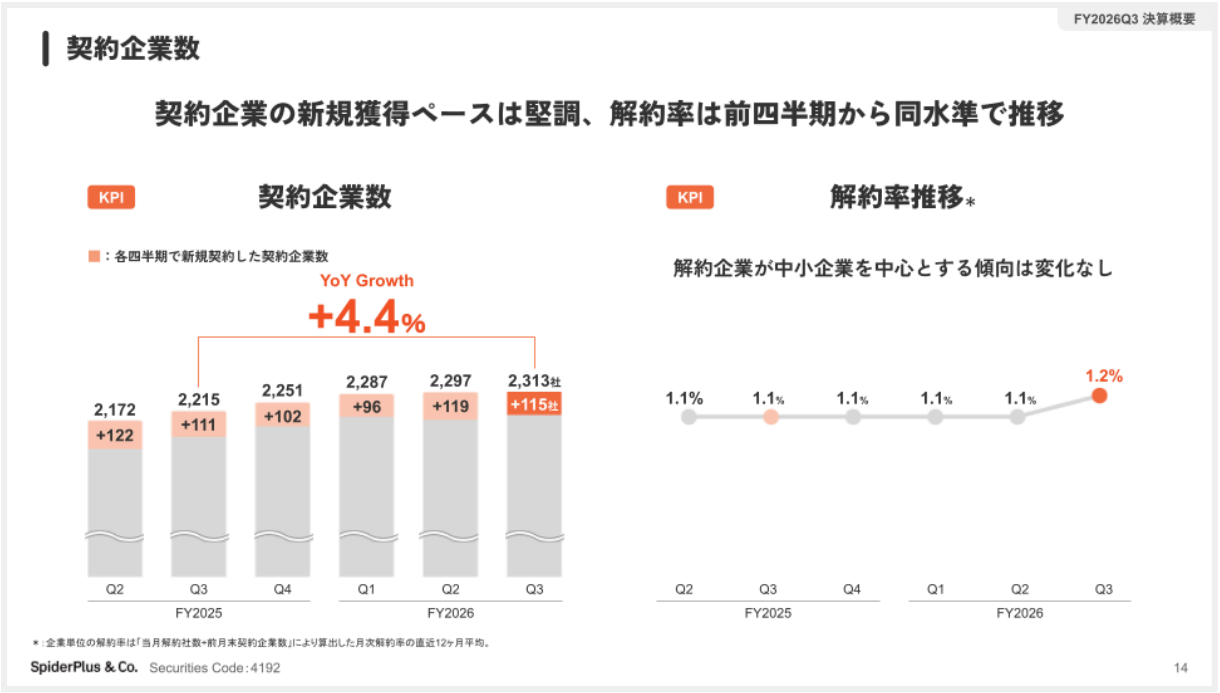
内訳は既存顧客による純増が277百万円、新規顧客による純増が75百万円、解約顧客による減少が41百万円で、既存顧客がARRの純増を牽引しております。



ARPAについてです。

契約企業1社あたりの月額契約単価であるARPAは198千円となり、前年同期比で7.6%上昇いたしました。積み上げた商談の進捗と、2026年7月に実施した価格改定によるものです。

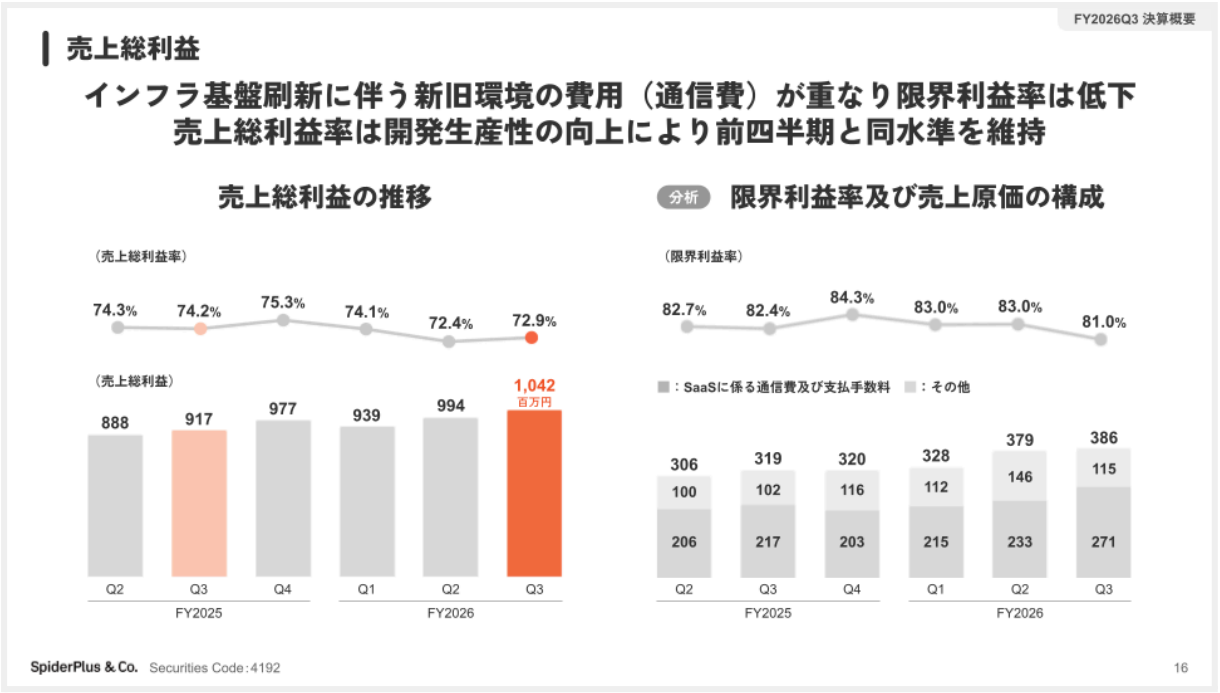
企業規模別では、大手企業が777千円、中小企業が88千円と、いずれも上昇しております。



契約企業数と解約率についてです。

契約企業数は2,313社、前年同期比+4.4%。第3四半期の新規契約企業数は115社となりました。新規契約企業の獲得ペースは堅調に推移しております。

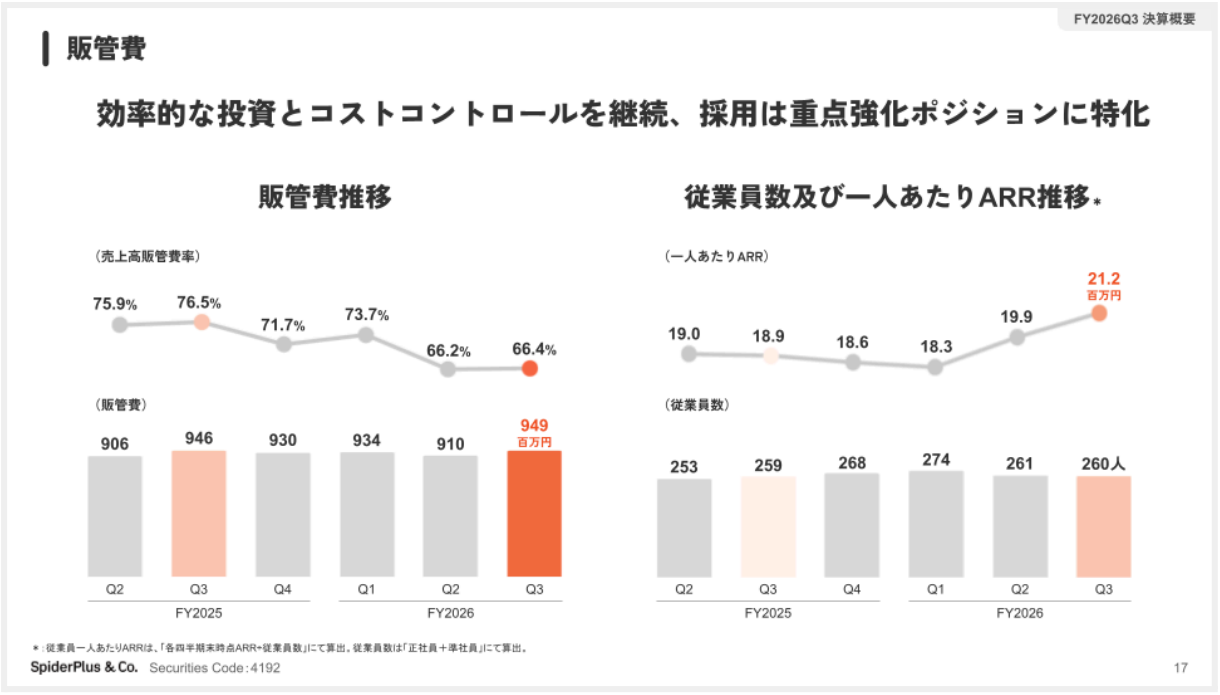
解約率は1.2%と、前四半期から同水準で推移しております。解約企業は中小企業が中心という傾向に変化はございません。



売上総利益についてです。

第3四半期の売上総利益は1,042百万円、売上総利益率は72.9%となりました。
インフラ基盤の刷新に伴い、新旧環境の通信費が重なっているため、限界利益率は81.0%に低下しております。

一方で、売上総利益率は開発生産性の向上により、前四半期と同水準を維持しております。

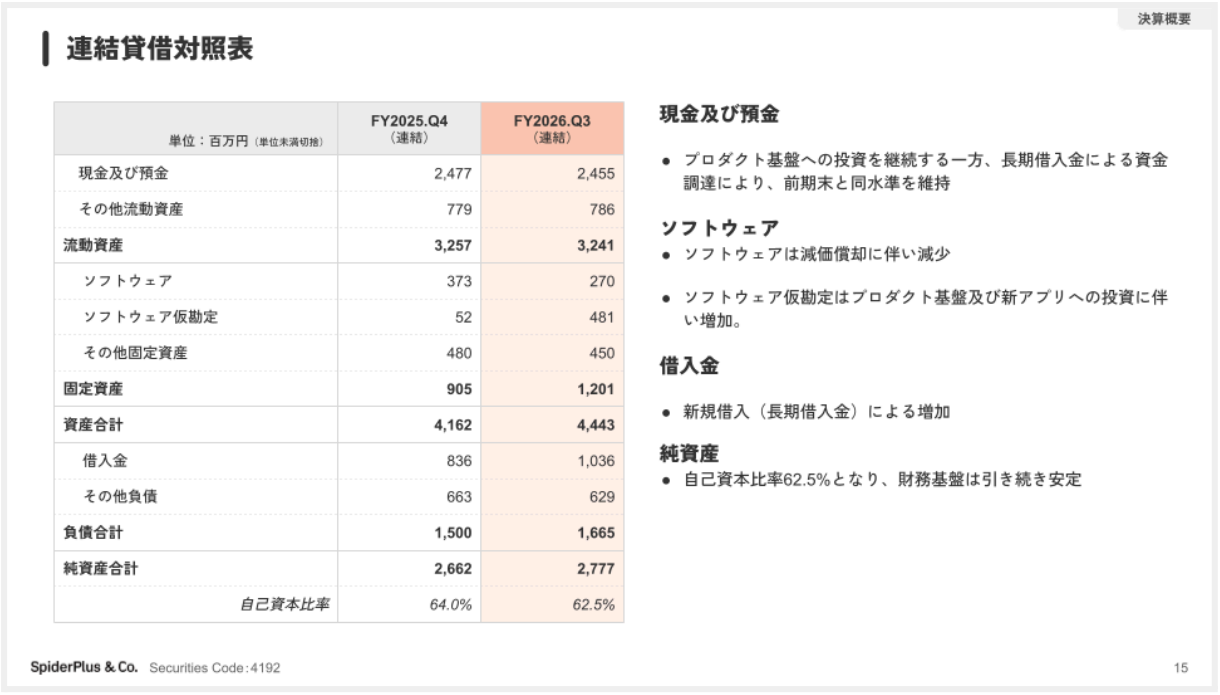


販管費についてです。

AIを活用した社内の業務効率化に取り組んでおり、実績として生産性向上効果が現れていることから、採用計画の見直しとコストの適正化を実施しています。
従業員数は260人、従業員1人あたりのARRは21.2百万円と、前四半期の19.9百万円からさらに上昇しております。

採用は重点強化ポジションに対して実施しています。生産性を高めた上で投資すべきところに集中的に人を配置しています。

効率的な投資とコストコントロールを継続しております。



決算概要

連結貸借対照表

単位：百万円（単位未満切捨）	FY2025.Q4（連結）	FY2026.Q3（連結）
現金及び預金	2,477	2,455
その他流動資産	779	786
流動資産	**3,257**	**3,241**
ソフトウェア	373	270
ソフトウェア仮勘定	52	481
その他固定資産	480	450
固定資産	**905**	**1,201**
資産合計	**4,162**	**4,443**
借入金	836	1,036
その他負債	663	629
負債合計	**1,500**	**1,665**
純資産合計	**2,662**	**2,777**
自己資本比率	*64.0%*	*62.5%*

現金及び預金

- プロダクト基盤への投資を継続する一方、長期借入金による資金調達により、前期末と同水準を維持

ソフトウェア

- ソフトウェアは減価償却に伴い減少
- ソフトウェア仮勘定はプロダクト基盤及び新アプリへの投資に伴い増加。

借入金

- 新規借入（長期借入金）による増加

純資産

- 自己資本比率62.5%となり、財務基盤は引き続き安定

SpiderPlus & Co. Securities Code：4192 15

連結貸借対照表についてです。

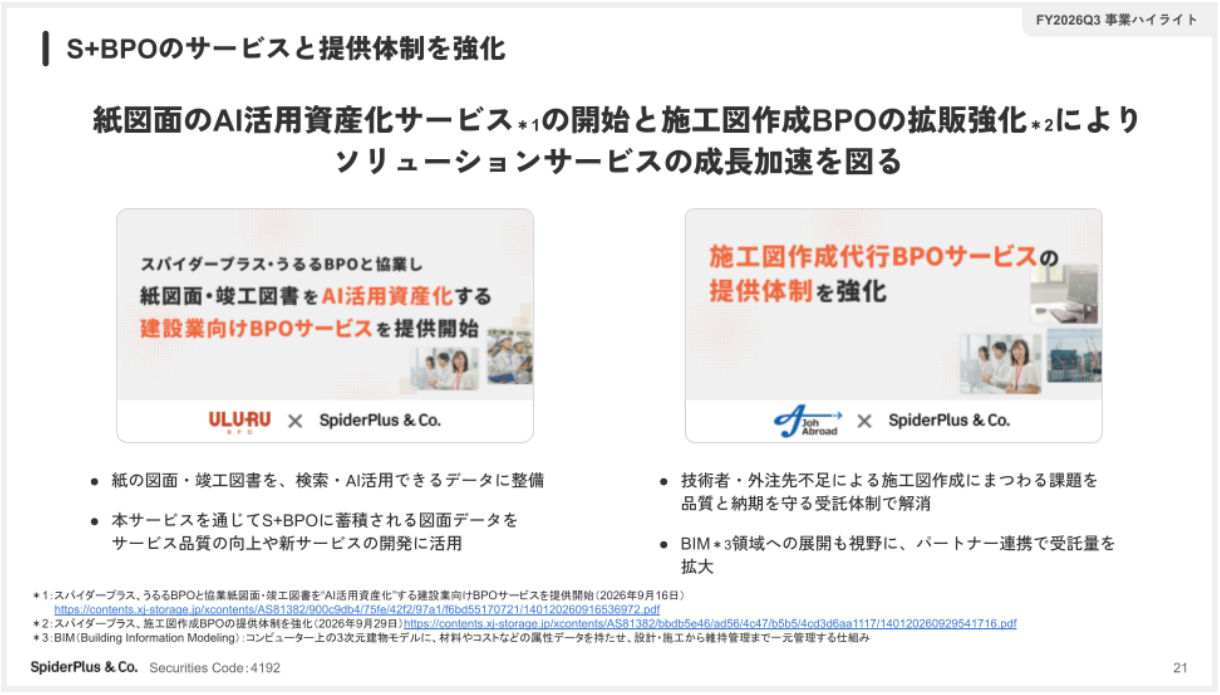
現金及び預金は2,455百万円です。プロダクト基盤への投資を継続する一方、長期借入金による資金調達により、前期末と同水準を維持しております。

ソフトウエア仮勘定は、プロダクト基盤及び新アプリへの投資に伴い、481百万円に増加いたしました。

自己資本比率は62.5%となり、財務基盤は引き続き安定しております。



続いて、第3四半期の事業ハイライトについてご説明いたします。



S+BPOについてです。第3四半期は、サービスと提供体制の強化を進めました。

紙の図面や竣工図書の検索やAI活用ができるデータに整備する、「紙図面のAI活用資産化サービス＊1」を開始いたしました。本サービスを通じて蓄積される図面データは、サービス品質の向上や新サービスの開発に活用してまいります。

また、施工図作成BPOでは、技術者や外注先の不足という課題に対し、品質と納期を守る受託体制を強化＊2いたしました。BIM＊3領域への展開も視野に入れ、パートナーとの連携により受託量を拡大してまいります。

これらにより、ソリューションサービスの成長加速を図ってまいります。

＊1：スパイダープラス、うるるBPOと協業 紙図面・竣工図書を“AI活用資産化”する建設業向けBPOサービスを提供開始
https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS81382/900c9db4/75fe/42f2/97a1/f6bd55170721/140120260916536972.pdf

＊2：スパイダープラス、施工図作成BPOの提供体制を強化
https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS81382/bbdb5e46/ad56/4c47/b5b5/4cd3d6aa1117/140120260929541716.pdf

＊3：BIM（Building Information Modeling）：コンピューター上の3次元建物モデルに、材料やコストなどの属性データを持たせ、設計・施工から維持管理まで一元管理する仕組み



経営体制の強化についてです。事業企画部門とプロダクト開発部門に、新たな執行役員を選任いたしました。

事業企画本部長の東使は、リクルートにおいて事業統括や事業企画、FP&A統括などを歴任してまいりました。

プロダクト本部長の石橋は、トレンドマイクロ、アマゾン ウェブ サービス ジャパン、日本IBMで製品企画や事業開発を担い、事業責任者を歴任してまいりました。

両名のもとで、プロダクト基盤の刷新と事業成長を加速してまいります。



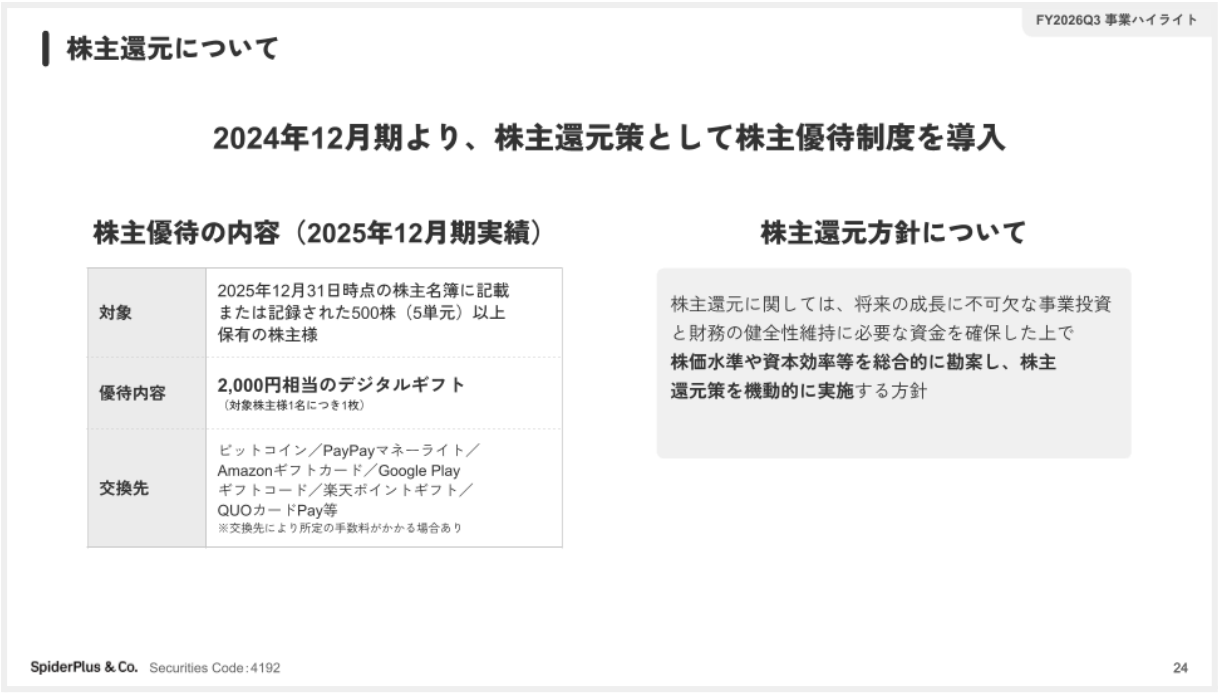
続いて、重点施策の1つ目に掲げている「プロダクト基盤の刷新」について、改めてご説明いたします。これは、中長期の成長を創出するための、開発環境とプロダクトに対する投資です。主な取り組みは3つです。

1つ目は、インフラ基盤の刷新です。インフラ環境を移管し、開発の効率性とサービス稼働の安定性を高めてまいります。

2つ目は、SPIDER+の新アプリです。新機能の追加やUIの刷新などにより、利便性を大幅に向上させた新アプリを開発しております。S+CollaboやS+Reportなど、他のアプリとの連携も強化いたします。新アプリは年内にリリースを予定しており、一部のお客様には先行的に導入いただいております。

3つ目は、セキュリティの強化です。当社はセキュリティ強化を重要事項として捉え、
安全性のさらなる向上に取り組んでいます。
重要性が高まるセキュリティ対応の強化を継続的に推進してまいります。

開発スピードと安定稼働、UI・UXの改善と新機能の追加、そして安心・安全な利用環境。
これらを通じて提供価値を高め、お客様の課題を解決する「現場の統合プラットフォーム」の実現を目指してまいります。



株主還元についてです。

当社は、2024年12月期より株主還元策として株主優待制度を導入しております。
2025年12月期の実績は記載のとおりです。

株主還元に関しましては、将来の成長に不可欠な事業投資と、財務の健全性維持に必要な資金を確保した上で、株価水準や資本効率等を総合的に勘案し、株主還元策を機動的に実施する方針です。

以上

本件に関するお問い合わせ

スパイダープラス株式会社　財務IR部
メール問い合わせ先：ir@spiderplus.co.jp
電話問い合わせ先 ：03-6709-2834